

所沢ニュータウン
自治会報
(一般住宅)
第199号
令和6年2月20日
発行責任者 増田 毅
所沢市中新井4-30-6
編集責任者 大野 保子

能登地震犠牲者悼み黙とう行う

令和6年1月7日(日)並木まちづくりセンター多目的ホールで、並木自治連合会の新年祝賀会が行われました。

開会に先立ち、元旦に発生した能登半島地震の犠牲者を悼み1分間の黙とうがささげられました。

その後、自治連合会会長の廣川隆通氏から「人と人とのつながりを大切にする力を持つ

た地区であることを強みと励みにして、協力して安心安全な街づくりをしていきたい」との主権者挨拶がありました。

続いて10月末の選挙で所沢市長に就任した小野塚勝俊氏から「就任70日目の新市長です」との挨拶があり、能登半島地震応援のため市役所から4名を派遣して必要とされる物

材を把握中と話がありました。並木地区については、「皆さんも周知のとおり高齢化率が高いが日常的に健康で活躍する場を持ち、それぞれの力を発揮しながらこのまちづくりを積極的に進めておられるように見受けられ、力強く思っています。」と就任の言葉に加えてのコメントがありました。

その後、来賓、地域に関係深い小、中、高校の先生、地域包括センター他の方々の挨拶が続きました。中央高校の先生からは、地域との交流は生徒に

「並木地区新年祝賀会」開催



小野塚新市長のご挨拶

とって大きな励みや力になっており、今後ともつながりを深めたいと心強い話が聞かれました。

その他、スポーツ、防犯、リクリエーションなどお世話になっている地区内団体の関係者の紹介など普段あまりお目にかからない方たちとの交流の場の親睦会、なごやかに流れ、この1年も住みよい街を目指して協力していきたいなど祝賀会に参加して心新たにしました。



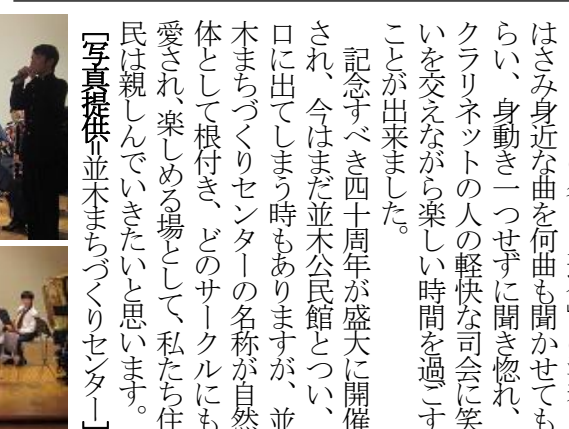
並木自治連合会加盟各自治会長、地区内中学校長及び各種団体代表者等の紹介。



小野塚市長の開会挨拶

並木地区のコミュニケーションの場として開設された公民館(現まちづくりセンター)が開館四十周年を迎えた記念音楽祭が2月10日(土)午後から多目的ホールで開催されました。

小野塚市長の開会挨拶をスタートに、第一部美原中学校吹奏楽部(写真右)、中央中学校吹奏楽部(写真左)の演奏が始まりました。いずれも中学生らしい楽曲が選ばれ、舞台いっぱいの人数の迫力と合わせ力強い音



記念すべき四十周年が盛大に開催され、今はまだ並木公民館とついで、口に出してしまう時もあります。並木まちづくりセンターの名称が自然体として根付き、どのサークルにも愛され、楽しめる場として、私たち住民は親しんでいきたいと思えます。

第6回 並木地区文化祭

第6回並木地区文化祭が11月4日(土)・11月5日(日)の両日並木まちづくりセンターで開催されました。

今まで何でも縮小モードで解放感が失われて、心から楽しめるイベントが遠ざかっていった感じでしたが、やっとな規模も従来の姿に戻って

来しました。

販売係りの人たちが9時前より準備にかり9時30分の開店に間に合うように働く様子が新鮮に感じ、何だかうれしい気分。出店ではポブコーン、焼き菓子、焼き団子、焼きいも

綿あめ、新鮮野菜が売られ、どのブースからも食欲をそそるいい匂いが立ち込めていました。昼食時間になるとうどん・コーヒ、日替わりの肉うどんの醤油の香りが加わり、両日共チケットを来場者の皆さん買い求めていました。中庭にはオープンテラス式で買った食べ物甘い香りの満ちる中で談笑しながら味わっていました。

今年はウクライナの方が民芸品を販売されていて珍しい品々が並びお客さんたちが手にとって眺めておられました。購入された方は個人的には大きな支援が出来るので、せめて小さな力になりたいと笑顔で言っておられました。ウクライナの方を目の前にして私たちの過ごしているこの日常がとてつもなく平和で大

切な時間であることを痛切に思い、神妙な気持ちになりました。

多目的ホールではたくさんあるサークルの発表会があり、日々一生懸命に練習されてきた成果が披露されました。コーラスの歌声・ダンスの軽やかな動き・楽器の音色・日本舞踊・民謡など、どの出し物も良い気分が楽しめることができました。舞台上で演じている人たちの緊張感が伝わって来て、自分も一緒に舞台上に立っている錯覚に落ち入りました。

2日目にはチューリップの球根の配布があり、「どこでももらえるの」とその時間帯になると、脱兎のごとく多くの人が走り行き200組の限定数がすぐ終了したそうです。

子どもたちの楽しめるビーズのプレスレット作りコーナーもあり、そこで懸命に作業に取り組んでいる姿が可愛かったです。

ほとんどどの天気の中で催された並木祭は地域の人たちとの接触があり盛り上がりがあった良いイベントでした。まちづくりセンターはそこに住む人たちの憩いの場として、なくてはならない重要な所です。

これからも並木祭を通してますます住民とお互いが寄り添いながら盛り上げていければと思います。



入口の文化祭の看板



館裏庭のウクライナ避難民支援チャリティー店



作品展示—絵画他



作品展示—陶芸他



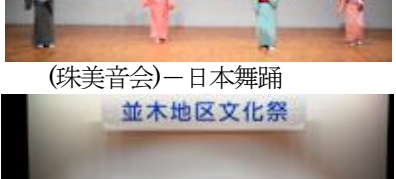
同一所沢中央高校演劇部の演芸



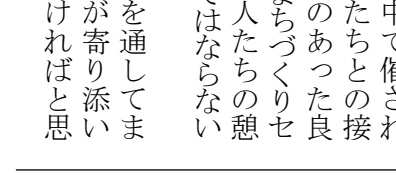
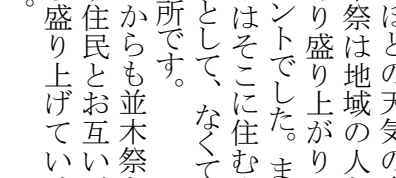
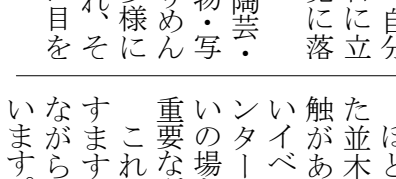
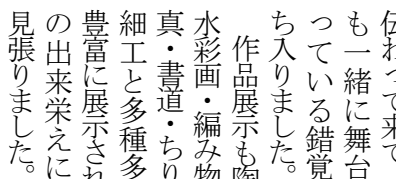
「エコーあおぞら」のコーラス演奏



(珠美音会)—日本舞踊



二胡—中国文化愛好会—浜千鳥他



「並木公民館」開館四十周年記念音楽祭

並木地区のコミュニケーションの場として開設された公民館(現まちづくりセンター)が開館四十周年を迎えた記念音楽祭が2月10日(土)午後から多目的ホールで開催されました。

小野塚市長の開会挨拶をスタートに、第一部美原中学校吹奏楽部(写真右)、中央中学校吹奏楽部(写真左)の演奏が始まりました。いずれも中学生らしい楽曲が選ばれ、舞台いっぱいの人数の迫力と合わせ力強い音

色に引き付けられてしまいました。

三番手に出演の所沢中央高校吹奏楽部は1年生9人(写真左)だけで編成されており、その人数をカバーするように第二部出演のプロ集団の「ホットファイヴ」の5人(写真右)が加わり、「栄光の架け橋」を演奏して下さり、一段と素晴らしい盛り上がりを見せてくれました。

第二部は木管5重奏「ホットファイヴ」の5人の演奏が続き、フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴット・ホルンの楽器の説明があり、普段馴染みのうすい楽器にも親しみが湧くと同時に、プロ集団のすごさを体験することができました。

ペーヴエンの名曲「運命」の演奏を聞き、身動き一つせずに聞き惚れ、クラリネットの人の軽快な音色に笑いを交えながら楽しい時間を過ごすことが出来ました。

記念すべき四十周年が盛大に開催され、今はまだ並木公民館とついで、口に出してしまう時もあります。並木まちづくりセンターの名称が自然体として根付き、どのサークルにも愛され、楽しめる場として、私たち住民は親しんでいきたいと思えます。

また、大野県知事他より贈られた祝電披露や、二十歳を迎える代表2名が登壇し、未来への抱負を述べるシーンもありました(左写真)。

第一部のお楽しみイベントでは、記念品プレゼント当選やジャンケン大会など笑顔とはしゃぐ姿にあふれたつどいとなりました(左写真)。

晴れ着姿(左下写真)は目を惹かせてくれますが、着付けやヘアメイクのためには早朝4時に起きた話

などを聞き、華やかさの裏にある保護者の方々も含めた「苦労を感じました。未来を担う若者として、感謝と思いを忘れず社会へ羽ばたいて欲しいと願います。

☆訂正させていただきます☆

『いぶき』198号に記載記事の民生委員の方の電話番号が1字違っていました。(正)加藤久美子 電 2943-2364 (誤)電 2943-2361 となっていました。申し訳ありませんでした。訂正をお願い致します。